富士砂防だより

発行
建設省
富士砂防工事事務所
富士宮市三園平1100
電話(0544)27－5221

「富士HEARTシステム」

山間急傾斜地における自然環境に配慮した建設資材等輸送方法

『富士山新輸送システム』出発式

富士砂防工事事務所では、山麓に住まう皆様が富士と共に安心して暮らし、地域のさらなる発展を支えるため、大沢崩れを中心とした富士山南西山麓の土砂災害に対する防災事業を展開しています。

大沢崩れ対策としましては、土石流の下流域への被害をくい止めるため扇状地対策を実施すると共に、源頭域においては斜面安定、植生復元等の調査工事を実施しています。

今後、大沢崩れ対策を、富士山五合目付近までの自然環境の豊かな場所を対象にして、砂防工事を本格的に実施するにあたっては、現在、ヘリコプターで行っている調査工事の資材運搬方法に代わる実用的な手段の開発が不可欠でありました。また、建設資機材の運搬においては、そこに生息する動物や植物の生態系・景観等に及ぼす影響を極力小さくする必要があります。

そこで、当事務所では、大沢崩れの源頭域など山間急傾斜地における自然環境に配慮した軌道方式の資材等輸送方法の技術開発をかねてより進めてまいりました。

平成八年八月には、富士宮市山宮地先に総延長３５２ｍの試験軌条の敷設が完了しました。その後、一連の試験走行を行い、安全、機能等が確認され、弓沢第３砂防ダムの施工にこのシステムを適用し、初めてコンクリート、型枠等の資材及び建設機械、作業者等の輸送を行い２次運搬を含めて砂防施設の建設をすすめ実用化試験を本格的に開始することとなり、本システムの敷設完了とコンクリート打設等の本格的稼動を始めるにあたって地権者、関係者の皆様を始め、開発に携わった方々に御列席いただき、「出発式」を挙行致しました。

機関車始動

始動スイッチを一斉に押す来賓の皆様と技術開発関係者

初荷出発

地元の代表の方々と地権者の皆様による大風船割りを合図に初荷（コンクリート）出発

挨拶

建設省中部地方建設局
河川部長　**浜口達男**

砂防事業は荒廃した山地や、土砂崩れの起きやすい所に砂防工事を行うことにより、土砂災害を防ぐとともに、長い目で見ると草や木が生え、森が復活し、動物が棲みつくといった環境保全の面でも非常に大切な仕事です。

しかし、工事の資機材を運搬するために工事用道路等で自然に影響を与えることがままありますが、本システムは、植物・動物・景観等の自然環境に配慮されたものであり、富士山を守るために役立つことはもちろんのこと、全国の砂防工事のみでなく、色々な問題をかかえる山間部での事業にも大活躍を願うものです。

祝　辞

静岡県土木部長
山田　功
代読　砂防課長
森下則雄

静岡県では、県政の指針「静岡県新世紀創造計画」を踏まえ、「健康で心ふれあう安心社会」の実現に向け、富士山の土砂災害対策を地域の主要施策として位置づけ、その推進に努めています。

又、富士山を世界に誇れる山、その恵みを将来に亘って享受できるよう、「富士山総合環境保全指針」を策定し、この指針に基づき、大沢崩れ対策や富士山の環境・景観保全に取り組んでまいりたいと考えております。

今後とも自然に配慮した本システムが、ますます活用されることを切望するとともに、地域の皆様はもとより、県民の強い願いでもあります大沢崩れ対策工事が、早期に又、安全に推進されることを祈念いたします。

祝　辞

富士宮市長
渡辺　紀

富士山にふさわしい輸送システムは何か…

急坂に強く、重い物を運べる。そして動物から植物まで自然にやさしいシステムを開発していただき、しかも日本で初めてだということで、日本一の富士山の砂防にふさわしい輸送システムを造っていただきました。

大沢崩れは更に崩壊が続いていますので、これらに向かって技術革新の第一弾としてこの新しい輸送システムが発展していくことを願うものであります。

「富士HEARTシステム」とは

富士山新輸送システムの機能や特徴を表現した本システムの名称として和名で「富士山環境調和型軌道式輸送システム」と名付け、これを英訳し頭文字を抽出し、富士山のもつ豊かな自然環境や景観にやさしいシステム並びに皆様に親しんで頂きたいという観点から「富士HEARTシステム」と命名されました。

ちなみに、HEART（ハート）のもつ意味は愛情、やさしさであり、本システムを富士山の自然環境や景観に文字どおりやさしいものとしていきたいと思っています。

名称を披露される
「富士山大沢川峡谷部資材運搬手段等計画検討委員会」
熊谷直敏（静岡大学名誉教授）委員長

急傾斜地　軌道式　輸送　システム
Ascent Railway Transportation system
調和　環境
for Harmony to the Environment

私に名前をつけて！

機関車 愛称募集

富士HEARTシステム（富士山環境調和型軌道式新輸送システム）の代表的機関車（写真）の愛称を募集します。

私（機関車）の特徴

- 急な坂（30度）が登れ重い荷物（3ｔ）が運べ力強いです。
- 自由に曲がれ、貴重な植物や大きな木がさけられます。
- 樹木の伐採等が少なくて済みます。
- 軌条が浮いているため、鹿等の動物が移動できます。
- 森の下草等への影響が少なくて済みます。

応募要項

■応募方法：応募はがき（Ｐ－７）又は、郵便はがきに、あなたが考えた「富士HEARTシステム」の機関車の愛称を１点記入し、住所・氏名・年齢・職業を明記して下記へご応募下さい。

■見学試乗：**希望の方はご連絡下さい（出来るだけ配慮させて戴きます）**

■賞　　品：入選（10点程、内１点は採用）された作品の方には粗品を進呈します。

■応募期間：平成９年１月15日（水）～３月10日（月）（当日消印有効）

■発　　送：平成９年３月下旬入選者に直接連絡するとともに、新聞等で発表します。

■応 募 先：建設省富士砂防工事事務所／広報担当
〒418 静岡県富士宮市三園平1100 電話（0544）27-5221

富士山への手紙・絵コンクール ～表彰式、記念講演会～

砂防法制定100年を記念し富士砂防工事事務所では、富士山に学んだこと・・・、富士山とともに生きること・・・、富士山と地域を守ること・・・、そして美しい富士山をいつまでも残していくために・・・をテーマに「富士山への手紙・絵コンクール」を、地元富士宮市、富士宮市教育委員会、（社）富士宮青年会議所との共催で実施し、平成8年9月20日に最終審査、10月20日には富士宮市民文化会館大ホールにて、表彰式をとり行いました。

富士山に学んだこと―
美しい富士山をいつまでも

表彰式では、遠く岡山県から来た高校生や、名古屋の園児を含め入賞者の多数が出席され、富士宮出身の橋本恵子アナによる司会進行により、静粛な中、和やかに行われました。引き続き地元富士宮少年少女合唱団によるさわやかな歌声が館内をつつみました。そして淑徳大学教授北野大氏（ビートたけしの実兄）を講師にお招きし、「富士山と水と自然環境」についてお話をいただき、受賞者の栄誉をともに喜びあうことができました。

富士砂防工事事務所長賞を受け取る▶
福島美恵さん

▲橋本恵子アナウンサーによる
司会、進行

▲審査を行う富士宮市美術協会
橋本明雄審査委員

▼手紙の入念な審査を行う
審査委員の皆様

▼１枚１枚を真剣に審査する池田
満寿夫審査委員長を始めとした
審査委員の皆様

▲富士宮少年少女合唱団によるさわやかな歌声

▲会場に展示された富士山の絵

記念講演
「富士の恵みをいつまでも」

ユニークなトークで聴衆を魅了させる北野大先生▶

富士山と水と自然環境について、テレビと同じくユニークなトークを交え、環境問題の変化や特徴、考え方などについて聴衆を魅了させながら、富士山の恵みの水や自然を次世代に伝えてほしいと講演していただきました。

▼講演に聞き入る参加者

講師　淑徳大学教授
北野　大氏

土砂災害防止月間キャンペーン

一瞬にして人命や大切な財産を奪いさってしまう土砂災害。土石流、地すべり、がけ崩れなど土砂災害のほとんどは、長雨や大雨がきっかけとなって起こります。また、阪神大震災でのように地震でおきる場合や、富士山大沢崩のように雪崩が誘発することもあります。このように土砂災害の危険性はますます増大している中で、建設省では6月を「土砂災害防止月間」として土砂災害の恐ろしさ、環境に調和した砂防事業の役割を皆様に知っていただくためキャンペーンを実施しました。

ミス富士山

ミス富士山(佐藤尚子さん)一日事務所長

◀「富士HEARTシステム」運転

▲書類に決裁

風祭り沈砂地工の施設効果を視察▶

▲砂防ダム視察

SABOフェア

セイフティーアップ
SABOフェア'96
in 名古屋

▲勢ぞろいした「ミス富士山」「ミスかぐや姫」ほか

右から
「ミス富士山」伊藤ゆかりさん
「ミス富士山」佐藤尚子さん
「ミスかぐや姫」寺井裕子さん

▲砂防伝言ゲームに参加する静岡チーム

▲しいたけの菌を打つ子供達

▲土石流実験

パネル展

◀富士宮市役所ロビー

▲富士宮市民文化会館展示室
パネル展・ビデオ上映

▼新富士駅ロビー

街頭キャンペーン

▲ヤオハン富士宮プラザの前で「アマツバメ」君と雨子ちゃん

街頭宣伝車による広報▶
及びパトロール

砂防施設効果調査

6月20日に富士宮市芝川町消防組合幹部約40名の方々が、土砂災害防止パトロールの一環として、去る3月30日に発生した、雪崩による土石流14,000㎥をくいとめた風祭り沈砂地工を視察されました。

又、6月18日には地元の方々も同様に見学され、砂防施設の重要さを認識していただいたことと思います。

富士とともに生きる　～第９次治水事業５箇年計画（案）～

富士砂防工事事務所と静岡県では、21世紀の社会を展望して、今後築いていくべき富士山と地域の姿、砂防事業の整備の進め方に関して地域の様々な分野で活躍されている方や学識経験者の方々からのヒヤリング、SABO Mt, Fuji懇談会、富士山大沢崩れ研究会等からのご意見、ご要望、ご提案を基に３つのテーマを柱として平成９年度から始まる富士山系における、第９次治水事業５箇年計画（案）をとりまとめました。

1. 安全と安心の場の形成

富士山大沢川の扇状地対策として遊砂地機能の拡大、ならびに峡谷域においては自然環境と砂防技術の調和を図りながら、低ダム群等、渓床対策を推進します。南西野渓対策においては、土石流、雪崩、地震、火山噴火に伴う土砂災害の安全確保ならびに、快適な社会基盤形成に寄与するため、砂防ダム、沈砂地工、床固工群の砂防施設の整備を実施していきます。又、情報基盤の整備として、大沢崩れ等、富士山周辺で発生する土砂災害から、人命と生活を守るため、降水量・気温・風・雪などのデータ収集を実施するとともに、土石流をリアルタイムで監視するためのテレビカメラなど情報基盤の整備を進めています。

◀富士山大沢川扇状地上流端・岩樋に設置された土石流監視カメラ

2. 美しい自然と共生

▲自然石をとり入れた須津第一砂防ダム

ー森と水と石とが奏でる三重奏ー

自然にやさしい砂防施設を目指し、子供からお年寄りまで、水辺で遊び、憩い、ふれあい、学べる場として「須津ダム工群」（富士市）等の推進を図ります。

3. 交流と地域づくり

大久保床固工群完成予想図

地域の発展を支えるプロジェクトエリアを土砂災害から守り、又地震対策として、大久保沢床固工群（富士宮市）等の推進を図ります。

完成 深沢床固工群（富士宮市上井出）

自然環境と調和した安全・安心なくらしの場を形成

土砂災害から人命と生活を守るため、平成元年に工事着手し、7年の年月と約13億円の費用を要し、8年1月に完成しました。（工事延長約900m・床固工12基・帯工5基）

グラフ見学会

富士山の現状を直接自分の目で確かめ、自然の持つ美しさ、雄大さ、そして厳しさと、それに立ち向かう砂防事業について理解と認識を深めていただけるよう大沢崩れや扇状地等の施設見学会を実施しました。地元に住む方々を中心に小学生から御高齢者まで、約50回800人の方が見学されました。

富士山大沢崩れと御中道見学会

第3回　9月11日

第1回　7月23日

第4回　10月15日

第2回　8月26日

ダイモンジソウ
（ユキノシタ科）
富士山御中道では８月から
９月に咲きます

富士山にはこんな厳しさ、すばらしさがあります。

5月20日
日本大学
教授、学生
大沢扇状地
樹林帯見学

7月29日
富丘小学校
家庭教育学級

8月19日
大沢扇状地
施設見学会
大富士小
家庭教育学級

9月5日
御中道
林間コース
井之頭小・中
母親学級

10月
冠雪した
富士山大沢崩れ
見晴台にて

11月6日
富士宮市職員と
富士山御中道
（富士宮口～
大沢）調査

郵便はがき

料金受取人払

富士宮局承認

10

差出有効期間
平成９年３月
10日まで

切手をはらずに
お出し下さい

4 1 8

静岡県富士宮市
三園平1100

建設省　中部地方建設局
富士砂防工事事務所
建設専門官　行

大沢扇状地・・・・・・・・・・・
クイズウォーク

夏休み（児童、生徒の）に普段は歩けない富士山大沢崩れ下流域の広大な扇状地（様々な砂防施設があり、土石流により流下した大きな石も数多くある）を、砂防、富士山、自然、生物等に関するクイズを解きながら約5kmのコース（荒涼たる川原や、花が咲き、小鳥のさえずる樹林帯）を歩く、クイズウォークを開催しました。友達と或いは親子でと、100名を越す参加者が仲良く、時にはクイズに頭をなやませながら歩く姿がほゝえましく、また、野外学習として「富士山と植物」のお話（講師：静岡大学理学部教授増沢先生）及び、砂防学習ゾーンへのフジアザミの植栽を行い、自然の雄大さ、厳しさ、そしてそれに立ち向かう、砂防の仕事を見ながら、自然に親しみ、理解を深めていただいた一日だったと思います。

▼スーパー堤防階段で

▲大沢川扇状地でクイズを解く参加者

▶樹林帯の中を歩く参加者

▲健康上の注意を説明する救急医院センターの高木美枝子さんと小林早苗さん

▶フジアザミの苗を植えている参加者

▲大沢扇状地を歩く参加者

▶フジアザミの説明をする静岡大学美里直美研究生

富士HEARTシステム
機関車の愛称　応募ハガキ

愛称

※愛称の意味（簡潔に）

●本システム及び機関車等に御意見、御感想がありましたら記述して下さい。

●富士山、大沢崩れ等、富士砂防の事業に御意見、御提言がありましたら記述して下さい。

住所	〒 TEL　（　　）		
氏名		年齢　歳	性別
職業（学校名）			

ご協力ありがとうございました。

調査・研究コーナー

大沢崩れ緑の回復計画

大沢川峡谷部でフジアザミ、ミヤマハンノキの植栽試験

大沢崩れの峡谷部の調査工事では数多くの新しい試みがなされている。そのひとつが、フジアザミによる植生の復元である。フジアザミは、富士山に自生するキク科の野草で、標高900m付近から2200m付近まで生育している。その特徴は、太く真っ直ぐな根を地中に杭のように早く伸ばし、裸地や崩壊地に最初に定着するパイオニア植物といわれ、土砂の移動を防止することにより、木本植物の導入等植生復元の足がかりとなることが期待されている。この調査は、静岡大学理学部増沢武弘教授の協力を得て平成3年から実施している。平成4年には、大沢崩れの標高2000mに移植した。平成5年春には前年12月に発生した雪崩にも負けず芽を出した。平成8年6月には新しい試みとして、ミヤマハンノキとフジアザミの移植を行った。今後の成長が楽しみである。

◀ミヤマハンノキ

フジアザミ▶の植栽

「がんばれフジアザミ」の原点を砂防学習の場に

上井出小学校児童と静岡大学によるフジアザミ植栽

富士砂防工事事務所では、平成3年度より富士山大沢崩れ対策の試験調査として、静岡大学教授、増沢先生の御指導御協力のもとに植生復元の足がかりとなることを期待し、「フジアザミ」などの植栽に取り組んできました。

その最初の植栽試験を行ったところが、大沢扇状地スーパー堤防です。

平成8年7月に堤防を整備し、大沢崩れ、植栽計画等の説明板とフジアザミ生育標本を設置するとともに、この場を砂防学習ゾーンと位置づけ、増沢先生と静岡大学生の協力のもとに地元上井出小学校児童により「フジアザミ」の植栽を行いました。

▼フジアザミを植える上井出小学校児童

▼フジアザミ生育標本

▲大沢崩れ植生計画説明板

「パソコン」「インターネット」を体験しよう！

21世紀の社会を展望した砂防事業を進めるにあたり、情報を広く提供し、様々な分野の方々と対話して、よりよい砂防事業を推進することを目的に事務所玄関ロビーにパソコンを設置し、事務所の案内やインターネットを体験できるコーナーを設置しました。コーナー利用時間は月曜日～金曜日の午前8時半から午後5時までです。気軽にご利用下さい。

インターネット
http: // www2. Shizuokanet.or.jp / fujisabo /

玄関ロビーのパソコン・インターネット体験コーナー▶

情報提供のお願い

●貴重な写真、資料等お持ちの方、また災害体験を有している方の情報提供をお願い致します。
（連絡先）富士砂防工事事務所（建設専門官山田又は、調査課長大長まで）
☎0544（27）5221（内線516又は351）

（問い合せ先）

■建設省富士砂防工事事務所
〒418 富士宮市三園平1100　TEL 0544(27)5221
FAX 0544(27)5986

■富士宮砂防出張所
〒418-01 富士宮市上井出826-1　TEL 0544(54)0236

富士山への手紙・絵コンクール

最優秀賞　作品集

主催者　富士宮市・富士宮市教育委員会
建設省富士砂防工事事務所
社団法人富士宮青年会議所

「頭を雲の上に出し、四方の山を見下ろして……」と歌われる日本一の富士山。富士山は四季によりその姿を変え、私達に自然の素晴らしさや厳しさを教えてくれます。

富士山の麓に住まう私達は、この多くの恵みを与えてくれる富士山に感謝し、富士山を心の拠り所に、自然の大切さを学び、美しい富士山を、そして地域をいつまでも守るとともに、文化の向上と豊かな心を持った人と人とが暮らす街づくりを目指したいと考え、今回富士山への手紙と絵を募集いたしました。

お陰様で、全国から手紙千三百九通、絵千六百七十一点に及ぶ作品が寄せられました。それぞれの作品に、富士山を愛し、富士山と共に生き、美しい富士山と地域を守っていこうという思いがあふれ、深い感銘を受けるとともに、今後、私共が進めようとしている富士山を核とした街づくりや人づくり、そして富士山大沢崩れの砂防工事等に、大きな励ましと示唆を戴いた思いが致します。

その中から九月二十日、審査委員長の池田満寿夫先生をお招きし、最終審査を行い、最優秀賞、優秀賞、佳作がそれぞれ選ばれ、最優秀作品をここに集録しました。

この作品集が、一人でも多くの方に読まれ、美しい富士山と地域をいつまでも守っていくことに役立つことができれば幸いです。

富士山への手紙・絵コンクール審査員

審査委員長
池田満寿夫（〔版画家・作家・映画監督〕）

審査員
橋本　明雄（富士宮市美術協会長）
星野　和彦（建設省富士砂防工事事務所長）
渡辺　義人（㈳富士宮青年会議所理事長）
藤井　國利（富士宮市教育長）
長谷川　漸（静岡県立富士宮東高等学校長）
中島　宏子（富士宮市立富士見小学校教諭）
石川　三枝（富士宮市立北山中学校教諭）
瀧　政幸（富士宮市教育委員会学校教育課）

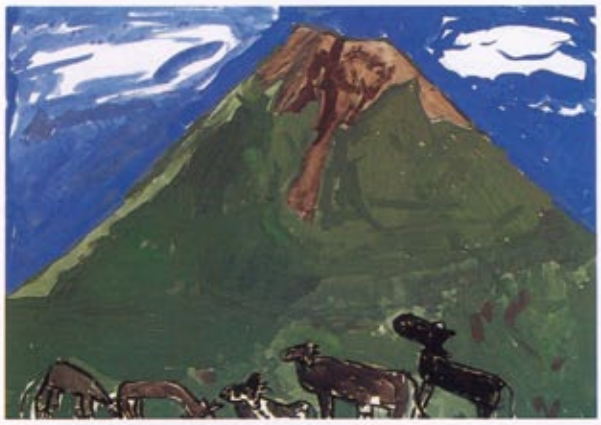
一次二次審査に携わった方々

鈴木　恒宏　伊藤　忠正　望月　克彦
大塚　俊宏　芦川　幹弘　山口　智博
相川　葉子　石黒　真弓　眞野まき子
松本　歌織　石川　好廣　加藤　隆雄
矢部　哲二　佐野　秀男　片田由美子
榊原　陽子　阿武　誠　稲葉　優佳
渡辺　勝大　山崎　文男　井出真理子
池谷　眞徳　佐野　實　佐野　敬祥
大坂　勝　割田千鶴子　芦澤　義子
前林　晴美　井出　智美　佐野　恵
山口　和彦　木脇　信一　若林　直己

（順不同）

富士山の絵

幼児の部
富士宮市長賞
愛知県名古屋市日吉保育園
年中　山川　理沙



小学生の部
㈳富士宮青年会議所理事長賞
富士宮市立人穴小学校
１年　熊谷　佳子

中学生の部
富士宮市教育長賞
富士宮市立大富士中学校
３年　高野智重子

高校生の部
建設省富士砂防工事事務所長賞
静岡県立富士宮東高等学校
２年　北村奈穂子

富士山への手紙

小学生の部
㈳富士宮青年会議所理事長賞
富士宮市立貴船小学校
一年　深沢　京

ふじさんありがとう

ふじさん、いつもきれいなおみずをくれて、ありがとう。わたしたちは、ふじのみやにすんでいるから、おみずがなくなるしんぱいがありません。たくさんおいしいおみずを、のんだり、かわであそんだりできます。

うちから、ふじさんをみていたときは、みずいろだったけど、なつやすみにのぼったときは、ちゃいろでいしころも、ごろごろしていたので、おどろきました。そして、やっぱり大きい山だから、のぼるのにたいへんで、あしがいたくなりました。ぼくはつしたのにきれいだから、びっくりしました。もっと、びっくりしたのは、わたしは、ずっと、くものうえはてんごくだと、おもっていたのに、くものうえにも、ふじさんがあったことです。きれいなやまなのに、きりがかかってみえなくなって、まだ、たくさんしらないとこが、ありそうだったのに、ざんねんです。

らいねんも、また、たんけんしにいくね。もっともっと、あしをきたえておくからね。

中学生の部
富士宮市教育長賞
富士市立須津中学校
2年　大河実己都

富士山へ

高く伸びた向日葵の向こう側で、今日もあなたは凛としています。

私があなたの絵を描くと、右側に小さな宝永山を乗せたきれいな二等辺三角形。いつもあなたが見えるこのまちに育った私は、そこにあなたがいる事があたり前で、その雄大な大きさも、その整った姿さえも、一枚の絵のように思っていました。

身近にいながら、遠い存在にいつの間にかなってしまったあなたに改めて出会ったのは砂防の学習のため、大沢崩れの見学に訪れた昨年の夏の終わりでした。滑らかに見えた山肌には、いたる所に風倒木が横たわり、落石に砂ぼこりが上がっていました。その光景は、まるであなたが傷ついているかのように私には見え、私はそっと地面に手を触れました。冷たい雪におおわれ、強い風にさらされながらも、いつも毅然と空に顔を向けて立っているあなたの、静かな鼓動がきこえたようでした。あなたの近くで色づきはじめたコケモモを見た時、あなたの体温が伝わってきました。

今、山々の荒廃が進んでいます。でも子供達が、昨日あなたの足元の大沢扇状地にフジアザミの苗を植えました。それが根を張る頃、私達はあなたのふもとに、花を咲かせましょう。

私は今、あなたとまっすぐに向き合って生活していけることを誇りに思っています。

高校生の部
建設省富士砂防工事事務所長賞
岡山県岡山市岡山女子高等学校
2年　福島　美穂

富　士　山

私と「富士山」の出会い。といっても本当の富士山をまだ見たことがない。だけど、富士山には思がある。今日はお礼を言いたい。

「富士山へ」

私が初めて富士山を知ったのは小学校三年生だった。音楽の教科書にカラーで載っていた富士山を見て、「青くて大きな山だな。」と思った。写真の横には『富士山』という歌と楽譜が載っていて、授業中に笛で吹くことになった。当時、暗くて存在の薄い私が『富士山』を吹いていたら、先生が「一人で吹いてみなさい」と言われた。吹く前は、富士山、助けて。」と思った。思いながら必死で吹き終わった時、クラスの人が「すげぇ、富士山を吹いた。」と言って拍手してくれた。日頃、ほめられる事のなかった私が富士山を笛で吹いて喜ばれた。私も喜んだ。そして、私は心の中で「富士山、アリガトウ。」と叫んだ。『富士山』という曲を吹いた日から少しずつ積極的になっていった私。(ちょっと大げさかな。)お金が貯まったら富士山を……、本物の富士山を見に行くからその日まで『日本一の山』でいてください。

さようなら。

成人の部
富士宮市長賞
富士宮市安居山
石川タツ子

夕映えの富士山

「晴れた日には富士山が見える。あの山の向こうにおれの家があるのだ、と思いながらいつも眺めている。」

二十年程前横浜で、四年間の学生生活を送った息子からのハガキです。これを読んだ私は涙で字がかすみました。というのは、特別の思い入れがあったからです。昭和二十五年、私は疎開中の石川家に千葉県から嫁いできました。(いつか東京に引き上げる)を合言葉に、みんなでがんばりました。日本一のあなたの膝元に住みながら、あなたの本当の美しさをゆっくり鑑賞する心のゆとりもなく、日々が過ぎていきます。そんなある日、真っ白に雪化粧したあなたが、夕日を全身に浴びてそれは美しく朱色に輝いているのを見たのです。ひと際濃い頂上のあたりから、ふもとの町までのぼかしの色の見事さに、呆然と立ちすくんでいました。全身が硬直するほどの感動でした。その瞬間、私は東京へ引き上げるのはやめようと決心したのです。「こんなに美しいあなたのいる町を終の棲家にしよう。そして子供たちの古里にしてやりたい」そう心に誓った私は、義父に「ここに住みましょう」とお願いしました。あの時東京へ帰っていたら、息子は古里も持たず、冒頭のハガキは書けなかったでしょう。それを思うとしみじみと、よかったなあというのが実感です。御身お大切にしてこれからも末永くよろしくお願いしますね。

講評

審査委員長　池田満寿夫

「富士山の絵」

幼児の部と小学生の部では、自由さと発想の意外性にあふれていて、びっくりするくらいユニークな作品がありました。

幼児の部の最優秀作品は、実に明解に富士山を表現しながら、おもしろい形になっています。また、空に舞っている鳥のようなものの形の不思議さにも引かれますし、全体にインパクトのある作品です。

小学生の部の最優秀作品は、牛と思われる動物と富士山との組み合わせ、ダイナミックな動物を手前にもってきて、地面を描かない構図がとても斬新です。色は富士山としてはやや暗い印象がありますが、左右を微妙に塗り分け、味わいのある色調となっていて、感心しました。

中学生の部は、写真や絵はがきを参考にして、写実的に描いたものがひとつの傾向として見られ、このなかにも技術的に上手で、意外性や力強さのあるおもしろい作品もありました。最優秀作品は、写実とは異なり、ロマンがあり、幻想的で、夢の中の富士山を感じさせます。技術的にも薄い和紙を小さくちぎって張り付け、さらにその上から色を塗るという中学生としては高度な技法を使っていてたいへん優れています。

高校生の最優秀作品は、淡い色彩を何回も塗り重ねることによって透明感を生み出し、富士山のもっているみずみずしさを表現しています。富士山を真ん中にボコンと描いたため単調に思われるかもしれませんが、そうではなく、光によって山肌が少しずつ変化していく様子を感覚的にうまくとらえています。高校生の部は、わずか八点の応募でしたので、あまり期待していなかったのですが、この絵はすばらしい作品です。

審査では千六百七十一点の全ての作品を見させてもらいましたが、選にもれた作品の中にも、優れたおもしろい作品がありました。とくに優秀作品と最優秀とは甲乙つけがたいところでした。

富士山というと、概念的にとらえることが多く、そういう作品もありましたが、今回のコンクールでは、ひとつの山をこれだけ多様にみなさんが表現されたということをとりあげても、大きな意義があり、非常によい結果だったと思います。

「富士山への手紙」

小学生の部の最優秀作品は、富士山のふもと富士宮に住み、富士山に登った時の体験を通して富士山と自然への感謝の気持ちと夢と探究心が素直に表現され、とてもすがすがしい手紙でした。

中学生の部の最優秀作品は、富士山と対話をしている様な、そして富士山の美しさ、雄大さ、やさしさ、厳しさが読む人の心に伝わってくるような素晴らしい手紙で、又、富士山を、自然を自分達の手で守って行こうという気持ちがあふれでてくるような作品です。

高校生の部の最優秀作品は富士山を見たことのない作者が小学生のころ体験した、一見小さな「富士山との関わり」と作者のその後の精神面への大きな影響とが、素直に手紙として表現されています。

成人の部の最優秀作品は、日本に住んでいる人なら一度は考えたことがある富士山への憧れが、戦争によって偶然に実現した過程を交えて書かれており、読んでいる人に共感を与えます。

富士山への手紙では、富士山への深い思いやあこがれ、富士山と人生との関わり、さらには富士山を美しく守りたいという気持ちがよく分かる手紙がよせられ、応募された全てを読むことはできませんでしたが、非常に感動的な手紙が数多くありました。ただ、富士山への思いが強すぎるためか、言葉を飾りすぎた手紙が多かったようです。文章もよくできていて小説としてみればおもしろいでしょうが、富士山は友達なんだ、という気持ちで、もっとくだけて、もっとストレートに手紙を出しても良かったのではないでしょうか。